

経営比較分析表（平成28年度決算）

奈良県地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	24	対象	透I未訓ガ	救臨がへ災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	26,770	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

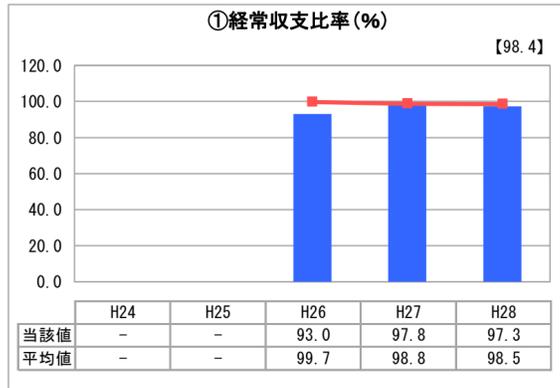
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
430	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	430
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
400	-	400

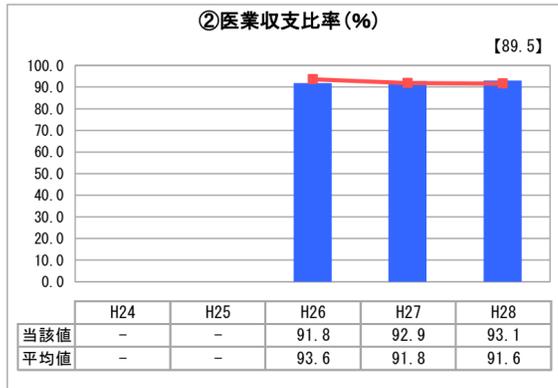
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

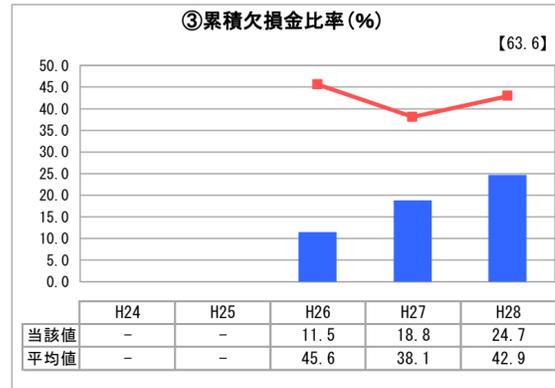
1. 経営の健全性・効率性



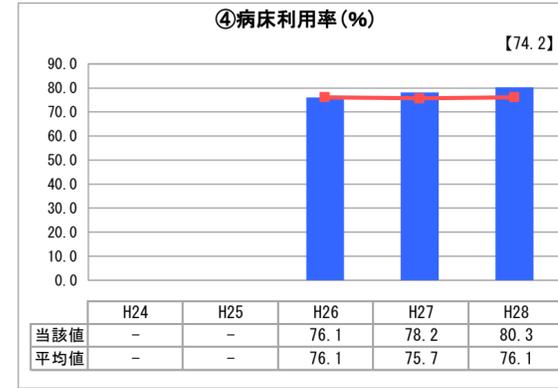
「経常損益」



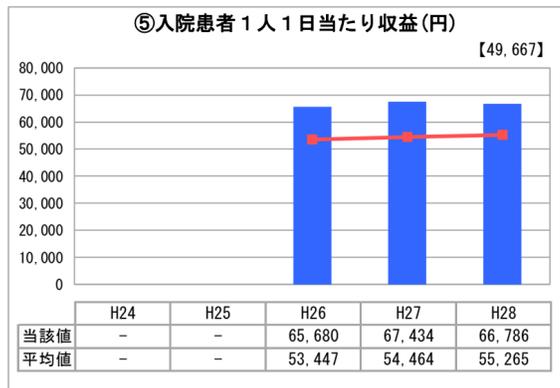
「医業損益」



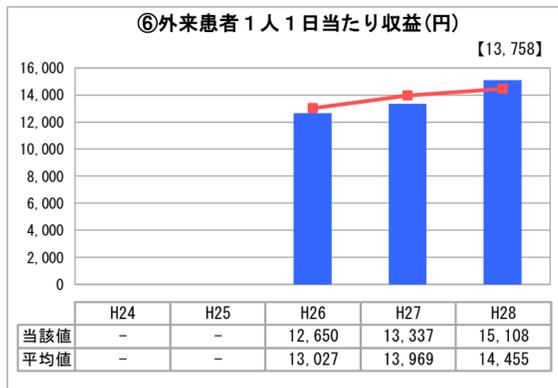
「累積欠損」



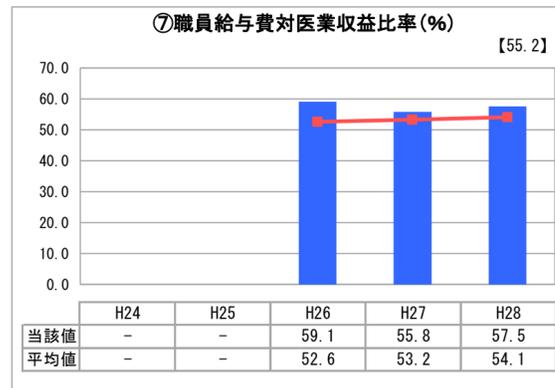
「施設の効率性」



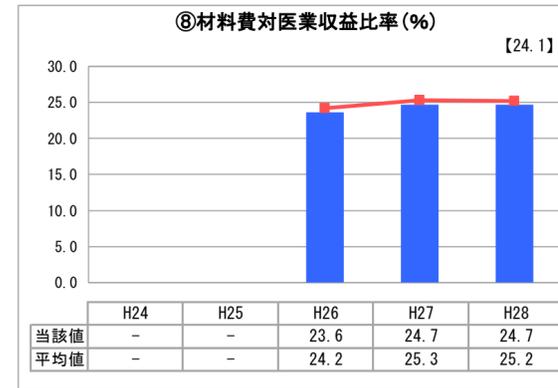
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

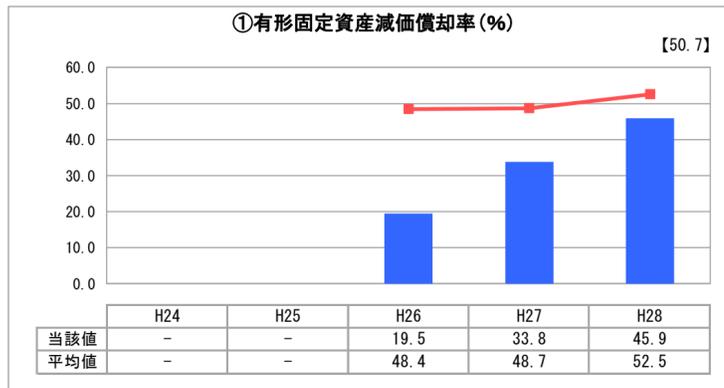


「費用の効率性①」

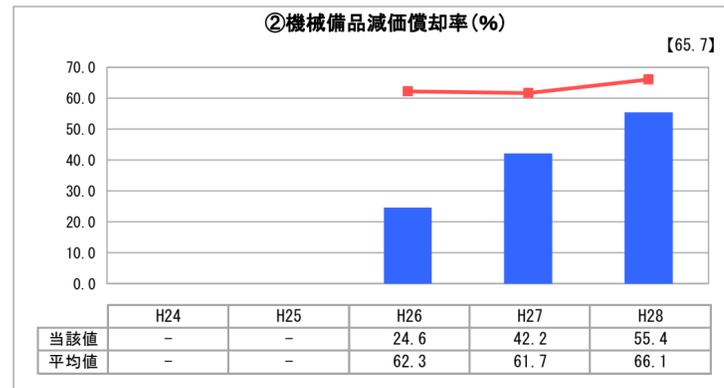


「費用の効率性②」

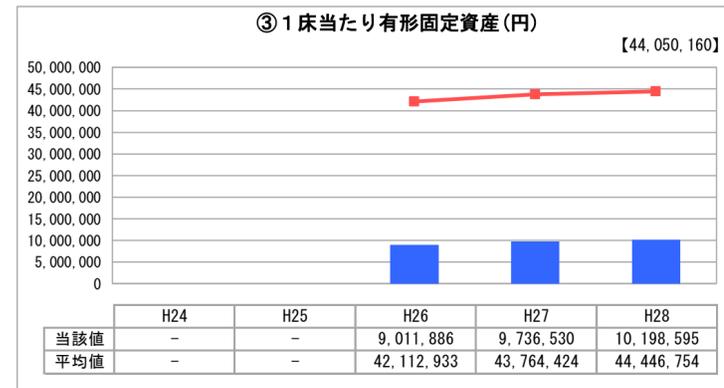
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

救命救急センターや周産期母子医療センター等を併設し、奈良県北部地域において高度急性期医療（三次救急）を提供する基幹病院として、地域住民に必要な医療を提供。さらに、平成30年5月に新築移転し、「救命救急医療」「がん医療」「周産期医療」「小児医療」「精神医療」「糖尿病治療」「災害医療」といった地域医療を支える7つの柱を有する、奈良県立医科大学附属病院と並ぶ奈良県の高度医療の拠点としての機能を果たしていく。また、新しい総合医療センターには、医療専門職教育研修センターを併設し、職員への研修のほか、地域貢献として、他の病院や介護福祉施設、診療所等の医療従事者のスキルアップのため、専門的な医療知識や技術等の研修を行う。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

H28決算は赤字であるがH27に比して医業収益は増収しており入院患者数も増加している。病床利用率も向上しており経営は改善している。ただし、依然として累積欠損金が増大しているため楽観できない状況ではない。H29には更なる収益の向上及び材料費等の経費削減が必要である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び機械備品減価償却率は類似病院平均値より低い水準にあるが、年々増加傾向にある。ただし、平成30年度には、新病院への新築移転が予定されており、新しい建物の取得や機械備品の更新により、固定資産の老朽化は一定解消される見込み。

全体総括

患者数及び診療単価は少しずつ向上しており、救急受入、ベッドコントロールや平均在院日数の短縮、地域連携等を進めることで収益を改善し、一方で医薬品や診療材料の価格交渉を行うことで費用削減に努めていく。そのため平成29年度にはさらなる経営改善が見込まれるが、新病院建設及び医療機器の更新により固定負債の増加、減価償却費の増加が見込まれるため、累積赤字の拡大は避けられない。持続可能な経営を実現するためには、病院独自の更なる経営改善に取り組む必要がある。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。